

資料1 分析結果（場内浸透水、周辺地下水[Ks3層、その1]）

調査地点	場内浸透水				K s 3 層 地下 水					年間平均値	年間平均値		
	揚水ピット				H24-8(2)								
採取日	R2.5.28	R2.9.1	R2.11.17		R2.5.28	R2.9.1	R2.11.17						
現場測定項目	浸透水	浸透水	浸透水	浸透水	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3					
気温 (°C)	23.0	29.0	24.0		20.0	28.0	18.0						
水温 (°C)	20.8	22.8	19.4		13.1	21.9	15.2						
採水水深 (m) (GLより)	-	-	-		4.47	4.97	4.71						
分析項目	分析結果				分析結果					安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準		
	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析	
pH	6.9	7.1	7.3		7.1	6.4	7.1	6.7		6.7	-	-	
BOD (mg/L)	3.6	2.0	0.7		2.1	-	-	-		-	20mg/L	-	
COD (mg/L)	20	12	10		14	-	-	-		-	40mg/L	-	
SS (mg/L)	4.0	1.0	1.2		2.1	-	-	-		-	-	-	
EC (mS/m)	290	190	190		220	15	14	14		14	-	-	
カドミウム (mg/L)	0.0022	< 0.0003	< 0.0003		0.0009	-	-	-		-	0.003mg/L	0.003mg/L	
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	-	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L	
ふっ素 (mg/L)	0.28	0.24	0.25		0.26	-	-	-		-	-	0.8mg/L	
ほう素 (mg/L)	0.9	0.9	1.0		0.9	-	-	-		-	-	1mg/L	
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	-	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L	
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	-	-	-		-	0.0005mg/L	0.0005mg/L	
PCB (mg/L)	不検出	不検出	不検出		不検出	-	-	-		-	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)	
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	-	-	-		-	0.03mg/L	0.01mg/L	
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	-	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L	
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	-	-	-		-	0.1mg/L	0.1mg/L	
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	-	-	-		-	0.04mg/L	0.04mg/L	
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	-	-	-		-	-	-	
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	-	-	-		-	-	-	
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	-	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L	
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	-	-	-		-	0.002mg/L	0.002mg/L	
1,4-ジオキサン (mg/L)	0.011	0.009	0.009		0.010	-	-	-		-	0.05mg/L	0.05mg/L	
鉄 (mg/L)	0.14	0.22	0.18		0.18	-	-	-		-	-	-	
マンガン (mg/L)	8.0	0.20	0.16		2.8	-	-	-		-	-	-	
溶解性鉄 (mg/L)	0.02	0.01	0.02		0.02	-	-	-		-	-	-	
溶解性マンガン (mg/L)	7.7	0.20	0.13		2.7	-	-	-		-	-	-	
アンモニア性窒素 (mg/L)	1.40	< 0.05	< 0.05		0.50	-	-	-		-	-	-	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.74	4.21	3.60		2.85	-	-	-		-	-	10mg/L	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.026	0.063	0.032		0.040	-	-	-		-	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンゾジイキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料2 分析結果（周辺地下水[Ks3層、その2]）

K s 3 層 地 下 水												
調査地点	H26-S2 (2)					H24-2 (2)						
採取日	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値		
現場測定項目	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3		Ks3	Ks3	Ks3	Ks3			
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
気温 (°C)	26.0	31.5	17.5			18.0	27.0	16.0				
水温 (°C)	19.2	19.3	18.4			16.5	15.9	16.6				
採水水深 (m) (GLより)	10.25	10.71	10.83			14.95	14.95	14.95				
	分析結果					分析結果					安定型最終処分場の 浸透水の基準	地下水環境基準
pH	6.8	6.8	6.9		6.8	6.1	6.1	6.1		6.1	-	-
BOD (mg/L)	1.7	2.3	1.5		1.8	0.7	1.2	1.0		1.0	20mg/L	-
COD (mg/L)	12	12	12		12	2.9	2.3	2.2		2.5	40mg/L	-
SS (mg/L)	2.9	3.9	2.6		3.1	< 1.0	< 1.0	< 1.0		< 1.0	-	-
EC (mS/m)	150	150	130		140	38	40	39		39	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003		< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003		< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0.22	0.21	0.21		0.21	< 0.08	< 0.08	< 0.08		< 0.08	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	1.5	1.5	1.6		1.5	0.2	0.1	0.2		0.2	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出	不検出		不検出	不検出	不検出	不検出		不検出	検出されないこと (< 0.0005mg/L)	検出されないこと (< 0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	0.036	0.034	0.043		0.038	0.011	0.009	0.010		0.010	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.76	0.74	0.64		0.71	0.11	0.20	0.11		0.14	-	-
マンガン (mg/L)	3.2	3.2	3.1		3.2	0.35	0.40	0.40		0.38	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	0.12	0.04	0.06		0.07	0.07	0.08	0.10		0.08	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	3.2	3.1	3.0		3.1	0.35	0.35	0.38		0.36	-	-
ダイオキシン類 (Pg-TEQ/L)	0.035	0.023	0.022		0.027	0.023	0.023	0.021		0.022	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンジド)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料3 分析結果（周辺地下水[Ks3層、その3]）

K s 3 層 地 下 水											安定型最終処分場の 浸透水の基準	地下水環境基準
調査地点	H24-4(2)					C-7						
採取日	R2.5.28	R2.9.1	R2.11.17	年間平均値		R2.5.28	R2.9.1	R2.11.17	年間平均値			
現場測定項目	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3		Ks3	Ks3	Ks3	Ks3			
気温(°C)	19.5	26.0	15.0			23.0	33.0	14.0				
水温(°C)	15.4	16.7	17.8			18.8	21.9	18.8				
採水水深(m)(GLより)	5.60	5.36	5.63			4.00	4.00	4.00				
分 析 結 果											安定型最終処分場の 浸透水の基準	地下水環境基準
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
pH	5.1	5.2	5.1			5.1	6.3	6.5	6.4	6.4	—	—
BOD (mg/L)	< 0.5	0.6	< 0.5			0.5	0.5	1.3	0.6	0.8	20mg/L	—
COD (mg/L)	< 0.5	1.1	< 0.5			0.7	3.4	4.9	3.6	4.0	40mg/L	—
SS (mg/L)	2.4	1.3	1.8			1.8	20	34	6.3	20	—	—
EC (mS/m)	4.4	4.0	4.7			4.4	79	73	81	78	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08	< 0.08			< 0.08	< 0.08	0.13	0.08	0.10	—	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1	< 0.1			< 0.1	0.3	0.3	0.4	0.3	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出	不検出			不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと ($< 0.0005\text{mg/L}$)	検出されないこと ($< 0.0005\text{mg/L}$)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004			< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	—	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジオキサン (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.07	0.84	0.03			0.31	2.2	0.23	2.0	1.5	—	—
マンガン (mg/L)	< 0.01	0.36	0.01			0.13	3.0	2.1	2.9	2.7	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	0.01	0.03	0.01			0.02	0.95	0.20	1.4	0.85	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	< 0.01	< 0.01	< 0.01			< 0.01	2.7	2.0	2.8	2.5	—	—
全窒素 (mg/L)	—	—	—			—	0.58	0.51	0.58	0.56	—	—
全りん (mg/L)	—	—	—			—	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.030	0.024	0.12			0.058	0.034	0.035	0.034	0.034	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンゾ「ゲ」イキソ)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱れることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料4 分析結果（周辺地下水[Ks3層、その4.]）

K s 3 層 地 下 水												
調査地点	C-8					C-9						
採取日	R2.5.28	R2.9.1	R2.11.17	年間平均値		R2.5.28	R2.9.1	R2.11.17	年間平均値			
現場測定項目	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3		Ks3	Ks3	Ks3	Ks3			
気温 (°C)	24.0	28.0	15.5			24.5	33.0	19.5				
水温 (°C)	16.8	17.4	18.4			17.1	22.1	20.0				
採水水深 (m) (GLより)	6.66	6.31	6.65			3.12	3.12	3.12				
分 析 結 果											安定型最終処分場の 浸透水の基準	地下水環境基準
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
pH	5.1	5.2	5.1			5.1	6.7	6.3	6.6	6.5	—	—
BOD (mg/L)	< 0.5	0.5	< 0.5			0.5	< 0.5	0.6	0.6	0.6	20mg/L	—
COD (mg/L)	1.3	1.2	0.8			1.1	3.8	3.0	3.9	3.6	40mg/L	—
SS (mg/L)	2.7	10	7.0			6.6	32	14	14	20	—	—
EC (mS/m)	32	18	28			26	51	35	44	43	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08	< 0.08			< 0.08	< 0.08	0.09	< 0.08	0.08	—	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1	0.1			0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出	不検出			不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004			< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	—	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001			< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジチオキサン (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.13	0.09	0.31			0.18	19	10	15	15	—	—
マンガン (mg/L)	0.23	0.02	0.04			0.10	2.9	1.9	2.6	2.5	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	0.02	0.01	0.03			0.02	4.4	2.8	8.2	5.1	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	0.21	0.01	0.03			0.08	2.9	1.9	2.3	2.4	—	—
全窒素 (mg/L)	0.56	0.23	0.44			0.41	1.56	1.19	1.50	1.42	—	—
全りん (mg/L)	< 0.05	< 0.05	< 0.05			< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.024	0.041	0.023			0.029	—	—	—	—	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンゾグアイキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱れることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料5 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その1]）

K s 2 層 地 下 水												
調査地点	H24-7					H24-6 (2)						
採取日	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値		
現場測定項目	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	18.0	27.0	13.0			25.0	33.0	19.5				
水温 (°C)	17.2	17.4	16.7			18.4	20.0	18.4				
採水水深 (m) (GLより)	9.64	9.30	9.35			9.43	9.00	9.06				
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の 浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	6.4	6.3	6.1		6.3	5.6	5.6	5.6		5.6	—	—
BOD (mg/L)	< 0.5	0.8	< 0.5		0.6	< 0.5	0.8	< 0.5		0.6	20mg/L	—
COD (mg/L)	3.6	4.2	2.4		3.4	< 0.5	0.7	< 0.5		0.6	40mg/L	—
SS (mg/L)	22	10	5.7		13	7.9	17	15		13	—	—
EC (mS/m)	9.4	10	9.3		9.6	8.6	8.8	8.9		8.8	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003		< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003		< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	0.015	0.018	0.010		0.014	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	0.12	< 0.08		0.09	< 0.08	< 0.08	< 0.08		< 0.08	—	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1	< 0.1		< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1		< 0.1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出	不検出		不検出	不検出	不検出	不検出		不検出	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	—	—
トランス-1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジ'オキソベンゼン (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	5.0	4.9	3.6		4.5	0.15	0.38	0.33		0.29	—	—
マンガン (mg/L)	0.38	0.38	0.39		0.38	0.02	0.02	0.02		0.02	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	3.5	4.2	2.9		3.5	0.04	0.02	0.03		0.03	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	0.32	0.32	0.35		0.33	0.02	0.01	0.01		0.01	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.039	0.024	0.023		0.029	0.036	0.034	0.031		0.034	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ'グ'イオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料6 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その2]）

K s 2 層 地 下 水												
調査地点	H26-S2					No. 1						
採取日	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	26.0	31.5	18.0			19.5	31.0	17.0				
水温 (°C)	19.5	23.0	18.6			21.4	21.3	20.8				
採水水深 (m) (GLより)	18.90	19.28	19.39			14.66	14.69	14.62				
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の 浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	7.1	6.9	7.0		7.0	6.6	6.5	6.7		6.6	—	—
BOD (mg/L)	0.7	1.3	0.6		0.9	1.3	1.4	1.2		1.3	20mg/L	—
COD (mg/L)	2.3	2.4	1.7		2.1	14	15	17		15	40mg/L	—
SS (mg/L)	< 1.0	1.1	1.4		1.2	32	57	28		39	—	—
EC (mS/m)	23	23	22		23	140	140	150		140	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003		< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003		< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	0.023	0.024	0.029		0.025	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0.15	0.22	0.19		0.19	0.11	0.16	0.14		0.14	—	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1	< 0.1		< 0.1	0.9	0.9	1.1		1.0	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出	不検出		不検出	不検出	不検出	不検出		不検出	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	—	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジオキサン (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.020	0.026	0.030		0.025	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.86	1.1	1.9		1.3	37	30	36		34	—	—
マンガン (mg/L)	0.55	0.55	0.63		0.58	3.7	4.4	5.0		4.4	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	0.79	0.69	1.5		0.99	11	4.4	16		10	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	0.54	0.51	0.56		0.54	3.3	4.2	4.8		4.1	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.026	0.024	0.050		0.033	0.028	0.055	0.050		0.044	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であるをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[1,2,3-d]ダイオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料7 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その3]）

K s 2 層 地 下 水												
調査地点	No. 3-1					H24-2						
採取日	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	22.0	29.5	13.0			21.0	27.0	15.5				
水温 (°C)	19.7	20.3	19.1			17.4	16.0	17.3				
採水水深 (m) (GLより)	13.33	12.91	12.98			25.38	25.37	25.37				
分 析 結 果					分 析 結 果					安定型最終処分場の 浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	7.1	7.0	6.9		7.0	6.5	6.6	6.5		6.5	-	-
BOD (mg/L)	0.8	1.1	0.6		0.8	0.7	1.1	0.7		0.8	20mg/L	-
COD (mg/L)	6.0	6.9	8.7		7.2	5.9	5.6	5.2		5.6	40mg/L	-
SS (mg/L)	7.3	11	7.3		8.5	< 1.0	< 1.0	< 1.0		< 1.0	-	-
EC (mS/m)	140	170	220		180	100	100	97		99	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003		< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003		< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	0.027	0.020	0.023		0.023	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0.27	0.33	0.29		0.30	< 0.08	0.11	0.09		0.09	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	0.5	0.5	0.7		0.6	0.6	0.6	0.6		0.6	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出	不検出		不検出	不検出	不検出	不検出		不検出	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	-	-
トランス-1,2-ジ'クロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジ'オキシベンゼン (mg/L)	0.009	0.011	0.016		0.012	0.018	0.015	0.019		0.017	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	8.2	11	25		15	0.46	0.38	0.57		0.47	-	-
マンガン (mg/L)	1.2	1.6	3.2		2.0	0.33	0.35	0.37		0.35	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	2.7	1.7	19		7.8	0.44	0.11	0.42		0.32	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	1.2	1.6	3.1		2.0	0.31	0.34	0.33		0.33	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.024	0.038	0.028		0.030	0.023	0.024	0.036		0.028	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であるをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジ'ベン'ゲ'イチン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料8 分析結果（周辺地下水[Ks2層、その4]、[Ks2+Ks3層最下流地下水]

調査地点	K s 2 層 地 下 水					K s 2 + K s 3 層最下流地下水					安定型最終処分場の 浸透水の基準	地下水環境基準
	H24-4					K-1						
採取日	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2+Ks3	Ks2+Ks3	Ks2+Ks3	Ks2+Ks3			
気温 (°C)	17.5	25.0	12.0			24.0	31.0	15.0				
水温 (°C)	18.9	19.1	18.6			16.0	16.2	15.4				
採水水深 (m) (GLより)	19.50	19.50	19.50			-	-	-				
分 析 結 果					分 析 結 果							
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
pH	7.0	7.0	7.0		7.0	5.7	5.7	5.8		5.7	-	-
BOD (mg/L)	1.9	2.5	1.3		1.9	< 0.5	1.3	1.0		0.9	20mg/L	-
COD (mg/L)	5.1	4.8	4.8		4.9	6.9	7.0	7.1		7.0	40mg/L	-
SS (mg/L)	1.9	3.6	1.5		2.3	3.7	4.4	2.9		3.7	-	-
EC (mS/m)	100	93	89		94	66	70	70		69	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003		< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003	< 0.0003		< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	0.11	0.09		0.09	< 0.08	< 0.08	< 0.08		< 0.08	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	0.7	0.6	0.6		0.6	0.7	0.8	0.8		0.8	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出	不検出		不検出	不検出	不検出	不検出		不検出	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	0.0003	0.0002	< 0.0002		0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.024	0.026	0.037		0.029	0.05mg/L	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.50	0.19	0.47		0.39	6.9	7.0	9.5		7.8	-	-
マンガン (mg/L)	5.1	3.8	5.5		4.8	0.43	0.45	0.48		0.45	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	0.14	0.02	0.28		0.15	6.6	6.4	8.7		7.2	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	4.6	3.7	5.3		4.5	0.42	0.42	0.44		0.43	-	-
ダイオキシン類 (Pg-TEQ/L)	0.022	0.025	0.027		0.025	0.024	0.024	0.022		0.023	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(1,2,3,7,8-ペネン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料9 分析結果（地下水確認調査[Ks2層、その1]）

地下水確認調査												
調査地点	No. 1-1					No. 4-2						
採取日	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値		
現場測定項目	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	19. 5	28. 0	16. 5			20. 0	28. 0	18. 0				
水温 (°C)	14. 9	18. 4	16. 3			14. 5	16. 8	14. 7				
採水水深 (m) (GLより)	14. 14	13. 78	13. 82			14. 13	13. 95	13. 93				
分析結果					分析結果					安定型最終処分場の 浸透水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			全量分析
pH	6. 4	6. 2	6. 4		6. 3	6. 4	6. 6	6. 5		6. 5	—	—
BOD (mg/L)	< 0. 5	1. 1	< 0. 5		0. 7	< 0. 5	1. 0	< 0. 5		0. 7	20mg/L	—
COD (mg/L)	1. 9	1. 6	1. 5		1. 7	1. 6	1. 3	0. 7		1. 2	40mg/L	—
SS (mg/L)	3. 4	1. 1	4. 8		3. 1	2. 7	2. 9	2. 1		2. 6	—	—
EC (mS/m)	69	36	42		49	15	14	12		14	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003		< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003	< 0. 0003		< 0. 0003	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005		< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005		< 0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0. 12	< 0. 08	< 0. 08		0. 09	< 0. 08	< 0. 08	< 0. 08		< 0. 08	—	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	0. 2	0. 1	0. 2		0. 2	< 0. 1	< 0. 1	< 0. 1		< 0. 1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005		< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005		< 0. 005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005		< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005		< 0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出	不検出	不検出		不検出	不検出	不検出	不検出		不検出	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001		< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001		< 0. 001	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005		< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005		< 0. 0005	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002		< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002		< 0. 002	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004		< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004	< 0. 004		< 0. 004	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002		< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002		< 0. 002	—	—
トランス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002		< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002	< 0. 002		< 0. 002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001		< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001	< 0. 001		< 0. 001	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002		< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002	< 0. 0002		< 0. 0002	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005		< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005	< 0. 005		< 0. 005	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄 (mg/L)	0. 16	0. 07	0. 15		0. 13	0. 18	0. 38	0. 13		0. 23	—	—
マンガン (mg/L)	0. 01	< 0. 01	0. 01		0. 01	0. 03	0. 15	0. 04		0. 07	—	—
溶解性鉄 (mg/L)	0. 02	< 0. 01	0. 01		0. 01	0. 03	0. 02	0. 03		0. 03	—	—
溶解性マンガン (mg/L)	< 0. 01	< 0. 01	< 0. 01		< 0. 01	0. 02	0. 11	0. 04		0. 06	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0. 029	0. 029	0. 028		0. 029	0. 024	0. 026	0. 022		0. 024	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1, 000, 000, 000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(テトラクロロジベンジ「ゲ」イネン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0. 45μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料10 分析結果（地下水確認調査[Ks2層、その2]）

地下水確認調査							
調査地点	市No. 3						
採取日	R2. 5. 28	R2. 9. 1	R2. 11. 17		年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	28. 0	32. 0	18. 0				
水温 (°C)	15. 9	16. 8	15. 6				
採水水深 (m) (GLより)	-	-	-				
分析結果						安定型最終処分場の 深透水の基準	地下水環境基準
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
pH	6. 7	6. 6	6. 6		6. 6	-	-
BOD (mg/L)	-	-	-		-	20mg/L	-
COD (mg/L)	-	-	-		-	40mg/L	-
SS (mg/L)	< 1. 0	< 1. 0	< 1. 0		< 1. 0	-	-
EC (mS/m)	120	110	110		110	-	-
カドミウム (mg/L)	-	-	-		-	0. 003mg/L	0. 003mg/L
ヒ素 (mg/L)	-	-	-		-	0. 01mg/L	0. 01mg/L
ふっ素 (mg/L)	-	-	-		-	-	0. 8mg/L
ほう素 (mg/L)	-	-	-		-	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	-	-	-		-	0. 01mg/L	0. 01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0. 0005	< 0. 0005	< 0. 0005		< 0. 0005	0. 0005mg/L	0. 0005mg/L
PCB (mg/L)	-	-	-		-	検出されないこと (<0. 0005mg/L)	検出されないこと (<0. 0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	-	-	-		-	0. 03mg/L	0. 01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	-	-	-		-	0. 01mg/L	0. 01mg/L
1, 1-ジクロロエチレン (mg/L)	-	-	-		-	0. 1mg/L	0. 1mg/L
1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	-	-	-		-	0. 04mg/L	0. 04mg/L
シス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	-	-	-		-	-	-
トランス-1, 2-ジクロロエチレン (mg/L)	-	-	-		-	-	-
ベンゼン (mg/L)	-	-	-		-	0. 01mg/L	0. 01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	-	-	-		-	0. 002mg/L	0. 002mg/L
1, 4-ジオキサ (mg/L)	-	-	-		-	0. 05mg/L	0. 05mg/L
鉄 (mg/L)	-	-	-		-	-	-
マンガン (mg/L)	-	-	-		-	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	-	-	-		-	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	-	-	-		-	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	-	-	-		-	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[ダイオキシン])に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベレーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

資料11 分析結果（経堂池[中央部中層]）

経堂池水質調査						農業用水基準	水質環境基準
調査地点	中央部	流出部	中央部		年間平均値		
採取日	R2. 6. 15	R2. 9. 15	R2. 11. 25				
現場測定項目	中層	中層	中層	中層			
気温 (°C)	26.0	30.0	10.0				
水温 (°C)	23.2	23.3	12.3				
採水水深 (m) (水面より)	中層: 0.70 m	中層: 1.1 m	中層: 1.1 m				
分析結果						農業用水基準	水質環境基準
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
pH	7.6	7.2	7.4		7.4	6.0~7.5	—
BOD (mg/L)	2.1	1.6	2.4		2.0	—	—
COD (mg/L)	6.8	7.4	5.6		6.6	6mg/L	—
SS (mg/L)	23	16	19		19	100mg/L	—
EC (mS/m)	38	29	25		31	30mS/m	—
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0.14	0.11	< 0.08		0.11	—	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1	< 0.1		< 0.1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	—	0.01mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		< 0.004	—	—
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	—	0.04mg/L
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		< 0.002	—	—
クロロエチレン (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	—	0.002mg/L
1,4-ジメチル (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		< 0.005	—	0.05mg/L
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.46	0.34	0.40		0.40	—	1pg-TEQ/L
全窒素 (mg/L)	0.57	0.46	0.46		0.50	1mg/L	—
アンモニア性窒素 (mg/L)	< 0.05	< 0.05	< 0.05		< 0.05	—	—
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.10	0.01	< 0.01		0.04	—	10mg/L
全りん (mg/L)	< 0.05	< 0.05	< 0.05		< 0.05	—	—
りん酸態りん (mg/L)	< 0.05	< 0.05	< 0.05		< 0.05	—	—
銅 (mg/L)	< 0.01	< 0.01	< 0.01		< 0.01	0.02mg/L	—
亜鉛 (mg/L)	< 0.01	< 0.05	< 0.05		< 0.04	0.5mg/L	—
蒸発残留物 (mg/L)	300	210	180		230	—	—
塩化物イオン (mg/L)	6.7	4.4	4.6		5.2	—	—

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ[1,2,3-d]ペリレン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 水中ポンプを用い、水深(約2m)の中層の水を汲み上げた。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

* 農業用水基準 : 農林水産省が学識経験者の意見も取り入れて、昭和45年3月に定めた基準で、法的拘束力はないが、水稻の正常な生育のために望ましいかんがい用水の指標として利用されている。